

JICA と鹿児島大学、 マダガスカルでコメの生産量増大に向けた共同事業 覚書を締結し、今後 5 年間で鹿大生 13 名を派遣

2025年3月10日（月）、独立行政法人国際協力機構九州センター（JICA九州）と国立大学法人鹿児島大学は、マダガスカル国でのコメの生産量増大を共同で進めるため、JICA海外協力隊の連携派遣に係る覚書を締結します。署名式には、寺岡 行雄・同大学農学部長と後藤 光（こう）・JICA九州所長が出席します。

覚書に基づき、JICA海外協力隊員として同大の計13名（長期派遣3名、短期派遣10名）が今後5年間にわたりマダガスカルに派遣されます。現地では国立農村開発応用研究センター（FOFIFA）に所属し、FOFIFA研究者のスキルアップ、新たな稲作技術の導入、農家への支援などに従事します。

【ポイント】

1. 鹿児島大学による組織的な取り組みの実現：

マダガスカルはアフリカの主要コメ生産国の一つで、長年、日本がコメ分野の協力を行ってきました。近年人口増加がコメの生産増加を上回り、コメの輸入量が増加しており、コメの生産性向上が喫緊の課題となっています。連携派遣を通じて、学生個人による活動のみならず、大学が組織的に関与（後方支援）することにより、マダガスカルにおけるコメの生産量増大へより一層の貢献が期待されます。

2. 活動経験を日本社会に還元：

派遣される学生は、海外での一層の活躍のほか、活動経験を糧に外国人との架け橋となり、多文化共生に取り組む鹿児島県や日本社会への貢献が期待されます。

【取材可能日時と場所】

日程：2025年3月10日（月）

13時10分～30分：鹿児島大学農・獣医共通棟3階中会議室（覚書の署名式を取材頂けます）

13時30分～50分：同上（出席者へ個別取材頂けます）

■問い合わせ先

取材いただける場合は、事前にJICA九州の渡久地（とぐち）までご連絡ください。

【本件に関する問い合わせ先】

JICA 九州 市民参加協力課 渡久地 舞

TEL：093-671-8341

E-mail：Toguchi.Mai@jica.go.jp

【参考】

■JICA 海外協力隊について

JICA 海外協力隊は日本政府の ODA 予算により、独立行政法人国際協力機構（JICA）が実施する事業です。開発途上国からの要請（ニーズ）に基づき、それに見合った技術・知識・経験を持ち、「開発途上国の人々のために生かしたい」と望む方を募集し、選考、訓練を経て派遣します。

その主な目的は、以下の 3 つです。

- （１）開発途上国の経済・社会の発展、復興への寄与
- （２）異文化社会における相互理解の深化と共生
- （３）ボランティア経験の社会還元

■独立行政法人国際協力機構（JICA）について

JICA は、開発途上国が直面する課題を解決するため、技術協力、有償資金協力、無償資金協力など日本の政府開発援助（ODA）を一元的に担う二国間援助の実施機関で、150 以上の国と地域で事業を展開しています。

国際社会の課題は日本とも密接に関係しています。国内外のパートナーと協力してそれらの解決に取り組み、世界の平和と繁栄、日本社会の更なる発展に貢献します。

詳しくは <https://www.jica.go.jp/index.html> をご覧ください。